

平成30年度 帯広市文化財審議委員会 議事概要

開催日時 平成30年6月26日(火) 11時30分～12時20分
場 所 帯広百年記念館 2号室
出席委員 安藤委員、池添委員、池田委員、伊藤委員、熊林委員、近藤委員、
齊藤委員、千葉委員、福田委員、船戸委員 10名
事務局 草森生涯学習部長、森川企画調整監、渡邊文化課長、山原百年記念館長、
杵淵係長、竹森主任、橋場係員

【内容】

- 1 開 会
- 2 教育委員会挨拶 生涯学習部長 草森 紳治
- 3 会長挨拶 帯広市文化財審議委員会 会長 伊藤 建夫

4 議題

(1) 平成29年度 帯広市文化財保護関係事業実施状況について

【説明】

①文化財調査・保存事業、②文化財活用事業、③アイヌ伝統文化保存・伝承事業について事務局より説明

【質疑応答】

なし

(2) 平成30年度 帯広市文化財保護関係事業実施予定について

【説明】

①文化財調査・保存事業、②文化財活用事業、③アイヌ伝統文化保存・伝承事業について事務局より説明

【質疑応答】

(委員)

アイヌ自然観察会は定員を設けているのか。

(事務局)

参加者が説明員の話聞いて一緒に見学できるよう定員を設けている。

(委員)

平成29年度と平成30年度事業で変わったところはあるのか。

(事務局)

全体の枠組みは同じだが、平成30年度では八千代A遺跡が国の重要文化財に指定される見込みであるため、その企画展を実施する予定である。

(委員)

日常生活において、文化財という言葉を書く機会が少なく、関連事業も百年記念館等限られた場所でしか行われていない印象があるため、なかなか市民が文化財に触れる機会が少ないと思う。もう少し文化財を市民へ広く周知していく中で、これを文化財にしてほしいなどの意識が生まれるのではないかと思うので、市民にそういった意識を醸成する取り組みが更にあればよかった。

(事務局)

市民に文化財のことを知っていただくというのは大切なことと考え、文化財めぐり等様々な活動を行なっているが、さらなる周知の強化は必要と感じている。

また、民間企業が文化財を活用してイベントを行なう等、新たな動きも出てきていることから、協力して広げていくことも考えている。

(3) その他

【説明】

①市指定文化財候補の洗い出しについて、どのように市民から情報収集を行なっていくかが課題であることを事務局より説明。

【質疑応答】

(委員)

昨年も意見したが、文化財審議会の回数が年1回では少なく、年に複数回実施してほしいと思っている。年1回の開催では、委員同士の十分な議論ができず、文化財に対する意見を求められてもなかなか出てこないのではないかと思う。

また、委員は専門分野で市から委嘱された方が多いが、文化財に対するスタンスが消極的に思える。市民憲章では、「北国の文化を高め、楽しいまちにしましょう」とあるが、実態が伴っていないように感じ、やりきれない気持ちになる。

(委員)

昨年からは委員になったが、文化財が正直どこにあるのかわからず、後ろめたい気持ちがある。実際に見てみたい気持ちはあるが、自分では足を運ぶことが困難なため、何か見られる機会がもう少しあったら良いと思う。

(委員)

年に複数回審議会を開催することに賛成である。先日、市議会を傍聴しに行ったら、ちょうど文化財に対する質疑があり、議員の方もとても関心があることに感心した。

市民を巻き込んで文化を次の世代に残す取り組みは大事だと感じている。

(委員長)

委員の意見をまとめると、委員が十分な議論をできるように審議会の回数を増やすことと、文化財を見て回れる機会をもっと作って欲しいということで、事務局の方で検討願いたい。

【説明】

②文化財リーフレット作成に向けた意見聴取について事務局より説明。

【質疑応答】

(委員)

ぜひ作って欲しい。名称と解説文だけではなく、リーフレットを持った人がどのように行けばよいか、地図を分かりやすくしたらいいと思う。

【その他】

(委員)

市町村指定文化財の1市町村あたりの全国平均は50数件、帯広市は8件である。

(委員)

これまで百年記念館で行われている事業やアイヌ関係の事業に参加しているので、かなり文化財に触れる機会はあると思う。文化財に成り得るものは何なのか考えていく中で、きめ細かな発信、事業への参加を募る必要がある。審議会委員ももっと関心を持ち、常に文化財について考えていかなければいけない。

(委員)

自分は参加できていないが、百年記念館で行われている催しをとっても評価している。新聞等でも周知の記事をよく見かけるので、参加しないのはもったいないと個人的には思っている。百年記念館に比べ、文化課発の取り組みが少なく感じるのもっとアピールしてほしいと思う。

また、数年前まで委員の改選時に市バスを使った史跡めぐりを行っていたので、行ってほしい。

(委員)

農村地域の防風林が伐採されており、どこか状態の良い防風林を文化財に指定できないか。伐採により防風林がなくなるのを危惧している。

また、岩内仙峡にあるカタクリの群生地やソラチコザクラ等の植物群も、文化財にならないか検討願いたい。

(委員)

各委員が関心のある分野の文化財候補をあげていき、それについて話し合っていくことが大切だと思う。そのためには、審議会が年1回では少ない。委員同士の話し合いの場がもっと必要。

(事務局)

審議会の複数開催については、市の他の審議会や報酬の兼ね合いもあるので、全庁的な整理もしなければならない。

今後、文化財に関する催しについては各委員にも周知することとし、委員の知見のために少しでも具体的に関わっていただく工夫をしてみたい。

5 閉会